

学校運営協議会 議事録

校 名	府立 港 高等学校
校長名	浦 山 聖

開催日時	令和7年5月9日（ 金 ） 15：30 ～ 16：45
開催場所	大阪府立 港 高等学校 1階会議室
委 員	常石 里美 委員 鍋谷 賀都緒 委員 沼田 潤 委員 吉田 景一 委員
学 校	校長 浦山 聖 教頭 宮城 良明 事務長 麻野 佳之 首席 内藤 亮一 教務主任 加藤 学 生徒指導主事 早川 宏行 自治会顧問 宮地 耕介 進路指導主事 今木 一充 3学年主任 稲田 和明 2学年主任 吉田 正勝 1学年主任 八田 博公
傍聴者	なし
協議資料	・ 学年、分掌マネジメント表 について ・ 令和6年度学校評価 について ・ 令和7年度学校経営計画 について ・ Challenge, Change, Smile !
備 考	

議題等（次第順）	
大阪府立港高等学校 令和7年度 第1回学校運営協議会	
次 第	
1 開会	（司会 教頭 宮城 良明）
2 校長挨拶	（校長 浦山 聖）
3 会長・副会長の確認	
会 長は	吉田 景一 様（推薦により選出）
副会長は	佐藤 美智 様（当日ご欠席）

4 報告

(1) 令和6年度末から令和7年度当初の生徒状況等(学年・分掌マネジメント表から)

- ① 教務部
- ② 生徒部 生徒指導
- ③ 生徒部 自治会
- ④ 進路指導部
- ⑤ 3学年
- ⑥ 2学年
- ⑦ 1学年

(2) R6 学校評価・R7 学校経営計画について

(3) その他

5 協議

- ・ 報告事項について(どんな観点からでも)

6 諸連絡

今後の協議会予定

令和7年度第2回 令和7年10月24日(金) 15:30～

令和7年度第3回 令和8年2月13日(金) 15:30～

7 校長「閉会」の挨拶

(校長 浦山 聖)

報告・協議内容等(意見の概要)

報告

(1) 各分掌・学年の進捗状況について(学年・分掌マネジメント表より)

① 教務部

- ・ 学校経営計画の4本柱に基づく。1～3は昨年度と同じ。4について、オンライン出願やデジタル採点、システム更新など、スムーズに対応するため、情報システム室を教務部内に取り込んで対応していく。
- ・ その結果、成果も出てきている。

② 生徒部 生徒指導

- ・ 遅刻数の削減について、今年度は大きく変え、表現を現状に合わせました。
- ・ また、大阪関西万博対応として、延着10分は遅刻扱いとした。その成果も遅刻数の減少として成果が出ている。

③ 生徒部 自治会

- ・細かい数値にこだわらず、大きな視点で課題を立てました。
- ・部活動加入率は入った部員が辞めないようにしていきたい。
- ・体育祭は応援団の人数が少ないが、伝統を引き継いでいけるよう新たな形式で実施。

④ 進路指導部

- ・3年生の大学進学希望 63%は、近年では一番大きな数字。
- ・生徒の希望を叶えるため、教員進路研修や生徒の模試分析会を実施している。
- ・1年生の探究の時間について、毎年安定して実施できるよう考え直していきたい。

⑤ 3学年

- ・（個人的に）学年主任6年目、重点課題の4本柱は揺らぐことが無い。
- ・2つ目（進路指導の充実）のために1つ目（生徒の状況把握と教育相談体制の充実）をしっかりとさせていく。

⑥ 2学年

- ・進路指導が充実するように、生徒が具体的に考えられるよう指導していきたい。
- ・国公立大学進学希望が35名。自分の実力をしっかりと見極めさせて、より具体的な目標を立てさせていきたい。

⑦ 1学年

- ・人間力の向上をめざして、1.基礎学力の向上、2.規律ある高校生活の実現、3.進路指導の充実を掲げて日々指導しています。

なお、保健部・総務部・人権教育推進委員会・教育相談委員会については、校務により担当者が欠席のため、教頭が資料に基づき簡単に説明をしている。

（2）（R6 学校評価を踏まえて）R7 学校経営計画について

校長 大きなポイントは次の4項目

- ・スタディサプリ導入2年目。AIが取り入れられ学習保障が取り組みやすくなっており、これを利用して予習の重要性を説いていきたい。先生方にももっと有効利用を求めたい。
- ・大規模災害を想定した避難訓練を実施する。生徒が学校に居る時に大地震が来たと想定。生徒心理を踏まえた教員行動を追求していく。
- ・広報活動もお金をかけずに、電子データの活用を図っていく。
- ・入試改革については、アドミッションポリシー枠（学校特色枠）について、早急に具体をどのようにしていくのか考えなければならない。

【質疑応答】

○印：学校運営協議委員会のご発言、ご意見 ●印：学校教員の発言、意見

○入試方法は今までと変わらないのですか？例えば面接など

●教育庁は「面接」「プレゼン」「傾斜配点」を例示しています。なお、部活の成績（実績）が良くてもそれだけで合格させるのはダメで（今までと同じ）、その結果を踏まえて、私は〇〇がしたい、〇〇を頑張るという本人のやる気をみて選抜する必要があります。

○アドミッションポリシーの書きぶりで、受験を止めることも考えられると思います。どれくらい読み込んできてくれるかは不明ですが…。また、自己申告書は生成 AI で書いている受験生もいると考えられ、読んだだけでは判断が難しい。だから面接をして、受験生が自分の言葉で話した内容で判断することが必要になってくると思います。

●私学は3科目入試。そのあと1か月足らずで公立入試。5科目の試験に例えばプレゼンが加わると、中学生の負担が大きすぎる。面接を実施するにも1対1では無理だし先生が2～3名で対応する必要があるが、評価基準をそろえる等、準備する内容が多く、負担増は免れない。受験生も先生方も負担増で、その方法を選択すればよいか悩んでいます。

○アドミッションポリシー枠で50%の生徒を選抜するには面接を実施しなければならないのではないかと。また公立離れが進まないように、対私学の関係をうまく進める必要がありますね。

●私学の面接は2～3分と聞いたことがある。しかし教育庁からの例示が不十分すぎるので対応できない現状である。

○やる気はあるけど学力が少し低い生徒がアドミッションポリシー枠で入ってしまうと、高校を続けていくこと（授業について行くこと）ができるのか不安が残ります。子どもたちにとって何が良いのか悩みますね。

●そのためにも、アドミッションポリシーの書きぶりを変えなければならない。しかし普通科は非常に書きづらいのが現状です。

次回の会議日程

日 時	令和7年10月24日（金） 15:30からの予定
会 場	大阪府立港高等学校 会議室